

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

R 5 年 11 月 22 日

三田市議会議長

様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	
		議員名	厚地 弘行
派遣者氏名	厚地弘行 佐貫尚子 中田 哲		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	山形県 尾花沢市 (市民マラソンとアーバンスポーツ施設)		
日 時	令和5年11月14日(火) 13時 ~ 14時30分		
視察先対応者	社会教育課 鈴木賢課長 生涯学習スポーツ 富樫久芳主査 商工観光課観光物産係 笹原聖志係長 議会事務局		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可 尾花沢市の「花笠マラソン」は、徳良湖を周回するコースで最大4周 11.9kmの市民マラソンである。その特徴は、市民まつりとの同時開催、観光物産協会と連携している。コース途中にはエイドステーションとして地場産の食べ物などを提供している。個人の他にファミリーの部、ウォーキングの部があり、自然と楽しむことを大事にするマラソンである。そして個人の完走タイムの記録は出るが、順位や時間制限はないと言う。参加者に市外の人も多い。それから大会の開催日が毎年5月3日なので、ランナー達の中には恒例行事としやすいという利点がある。課題は駐車場の確保ということだ。  つぎにパンプトラックの説明であるが、最初に子供たちが遊んでいる動画を視聴した。子供たちの楽しく滑る姿、表情は何とも良く、それだけで三田市にも設置を望みたくなった。尾花沢市は雪国であるため施設の開催時期は4月下旬～11月上旬。時間は平日は夜8時まで、土日祝日は午前10時～夜8時まで。運営方法は指定管理者(株)尾花沢ふるさと振興公社に業務委託。料金は有料で、高校生以下市内は無料、大人は400～500円。市外の方は高校生以下300円、大人は500～600円。シーズンの間使えるシーズン券も発行している。使用実績R3年1,948人、R4年3,240人、R5年2,569人、順調に推移しているように思われる。概ね3分の2は市外の利用者である。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

## 尾花沢市

【所見】尾花沢市の花笠マラソンは三田市のマラソンより規模は小さいが歴史は古い。そして参考にしなければならないと思うことは、ファミリーマラソンとウォーキングの部ではないかと思う。基本的な考え方として「楽しむ」という事が見られる。市の徳良湖まつりと同時開催しているのも趣旨にそったものだ。また市外からの参加が多く、リピーター率も高い。この事は走りやすさがあるかもしれない。つまりランニング距離が短く家族参加であることや、時間制限がないこともあると思う。順位を決めるマラソンではないのでランニングの記録を意識する人は少ないと言う。人気の一つに開催日が毎年5月3日と固定しているので、ランナー達は開催日を記憶しているし、その日を個人的な恒例の行事にもしやすいということも考えられる。

参加費や参加品は三田のマラソンと同じようなものであり、課題である駐車場の確保も同じ問題点である。今後三田のマラソンについて、ウォーキングマラソンや他のイベントとの同時開催にも検討をしていくべきと考える。

次にパンプトラックはランニングバイクとスケートボードを滑らし楽しむことのできる施設である。今回の視察では冬季の雪のため11月5日に休業となっていたため現地を見ることができなかったのは残念だったが、施設の利用状況をビデオ動画で見ることができた。ひと目に子供たちの遊ぶ姿を見ると楽しそうであり、羨ましく感じる。この施設も市内より市外からの利用が多く、概ね市外の人利用は市内の人の倍程度もある。

有料施設だが市内の高校生以下は無料。運営会社「(株)尾花沢ふるさと振興公社」は、市のいくつかの施設の指定管理者となっているなかで、パンプトラックでは地域の人が多く関わっていると言う。その指定管理料の範囲で正式競技のできるランプを作製している。ランプとはスケートボード等のできるボール型の施設である。近隣市にも公式の競技のできる施設があるということだが、この尾花沢市の施設でも十分な練習ができています。

これまで会派としても三田市内での設置を求めてたがまだ実現されていない。パンプトラックはセットで572万円なので、大き過ぎる予算ではなく三田市でもぜひ実現したいところである。一番配慮しなければならない事は施設周辺民家への騒音ではないかと思われるが、尾花沢市では徳良湖という離れた地域に設置されているのでその心配はいない。三田市にも住宅地から離れたと所で検討できるのではないかと思う。その場合子供たちが利用するには移動の問題があり、施設への送迎を親が担わなければならないという現実の課題は考えられる。擦り傷なども想定されるが安価であるし、いずれにしても子供や若者のための魅力ある施設であることに間違いはない。可能な限りの安全策を施して実現に向けて市に要望をしていきたい。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年11月22日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	
		議員名	厚地弘行
派遣者氏名	厚地弘行・中田哲		
視察先及び調査事項(調査目的)	山形県酒田市 生成 AI 活用の現状と課題について		
日 時	令和5年11月15日(水) 10時00分～11時30分		
視察先対応者	酒田市議会 議長 高橋千代夫 様 酒田市 企画部 デジタル変革調整監 本間義紀 様 議会事務局		
(調査結果の概要及び所見) 【調査結果の概要】 1. 酒田市概要 人口・世帯数 96,777人 42,600世帯 (2023年3月末時点) 高齢化率 37.3% (2023年3月末時点) 市職員数 1,413名 会計年度任用職員含む 一般会計当初予算 令和5年度 55,200,000千円 2. 導入背景について 昨今 ChatGPT等の技術革新により生成 AI 技術の活用についての議論が活発化 ⇒条例改正やガイドラインの作成等、自治体の動きも加速。 DX 積極推進を掲げる酒田市もデジタル変革戦略室を中心に活用法、課題について検討。 『対話型 AI サービス活用ガイドライン』策定(セキュリティポリシー踏まえる) ⇒ガイドラインに基づき対話型 AI 技術を積極的(特に部課長級は)に活用し、業務効率化及び市民サービス向上等に資するものへ。 3. 酒田足対話型 AI 活用ガイドライン ① 基本姿勢 素案作成段階の参考資料としての活用にとどめる。外部への発信の際は、担当者が根拠や正確性等を確認。 ② 対象サービス ChatGPT 及び Bird ③ 活用事例 ・文章作成 あいさつ文・一般文書・メール等 ・文章校正 誤字脱字 文章流れ 確認 ・文章要約 会議記録等要約			

- ・アイデア生成 事業提案・アドバイス、ブレインストーミング
- ・情報検索 情報の検索・調査
- ・コード生成 Excel 関数 VBA Java 等のプログラムコード生成
- ・翻訳 等

④ 留意点

・所属長の許可、個人情報の入力不可、密事項入力不可、差別用語・倫理に反する表現含まれないか確認、著作権侵害の確認。

○積極活用後、事例を収集⇒職員間で共有。

4. 導入にあたっての苦勞

- ・上司の理解
- ・ハード面での工夫
- ・コストの節減
- ・最初の一步のサポート (チームに一人精通者の配置・育成が望ましい)

5. 今後の課題

- ① 職員によって活用度に大きな差が生じている
- ② 利用端末に限りがある
- ③ 仮想ブラウザの負担が重い
- ④ プロンプト入力(聞き方・問いの立て方)の精度が必要
- ⑤ 画像や音声への活用
- ⑥ 個人情報・機密情報・誤情報・著作権侵害のリスク管理
- ⑦ 先進事例と庁内活用情報の共有 等

6. 予算

接続機器・タブレット・ネット環境など既存のものを活用、アプリケーションも無料版を利用しているため導入費用はゼロ。

⇒今後については、さらに技術革新が日進月歩で進む可能性が高く、費用対効果、他都市の事例を見極めながら、適時適切に必要な投資判断をしていく。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

## 酒田市

【所見】酒田市の人口は三田市とほぼ同様の10万に近い都市である。チャットGPTを業務に活用することを推進していることをDファイルで見つけ視察することにした。生成AIを取り入れることとなった経緯、具体的な手続き、効果、課題についてわかりやすく説明していただけた。活用のためのガイドラインでは個人情報、機密事項の入力はしないこと、差別用語、倫理に反する表現がないか確認すること、著作権を侵害していないか確認するとある。このことは重要であると思う。その中で特に著作権であるが、世の中で著作権に触れるようなものを全てを把握し調べることに困難はないかと質問をしたところ、完全ではないが常識程度の確認にとどまっていて、確かに全てを確認することはできないとの回答であった。

次に文章の生成や文章の要約といった作業を生成AIで試しているが、そのままの文章を活用することはないとのことであった。文章は唯一無二の正解ではないので、その時の酒田市の状況や担当者の考えなども汲みされることは当然のことと思う。逆に担当者が生成AIの作った文章をそのまま使うことが常態化するほうが仕事が安易になるのではないかと心配される。先々にAIの精度が高まればそう言う時代が来るかもしれない。

職階別活用報告によれば部長、課長級の活用が多く上司が率先している姿がわかる。このことから酒田市の職員の普及は早まるのではないかと期待される。また種類別活用ではアイデア生成が42.9%と高い。しかし実際AI生成によって活用されたアイデアはないとのことであった。アイデアについては酒田市の事情が十分に反映されているものではなく、AIの情報量がまだ十分な状況にないと推測されている。

三田市が進めるにあたって先進的に進める酒田市の活動は大変参考になるものであった。ガイドラインの作成は必要であるし、外部専門家との連携、所属長の積極性も必要であると思う。生成AIによる完成品を全て使えるわけではないが、今後の市民サービスに大いに活用されるものと考えられる。時代の趨勢として取り残されないようにしなければならないし、技術理解の深い市民と市の職員とのギャップも大きくならないように職員の知識もある程度磨いていかなければならないと考える。